



No.118 2021.8.3

明石市コミュニティ・スクールだより  
人をつなぎ 未来をつなぐ 明石のコミュニティ・スクール

## コミコミスクスク

KOMIKOMISUKUSUKU

明石市教育委員会事務局学校教育課



コミスク TwitterQR

### まちづくり勉強会 “「地域における学び」を考える”

まちづくり勉強会  
「地域における学び」  
を考える

参加費無料  
※お申し込みが必要です

7月27日(水)  
13:00～15:00

会場  
・ウイズあかし  
・読書コミセン  
・福祉センター  
・公民館 三木センター

講師  
中川 幾郎氏  
（岡山大学名誉教授、元大阪大学 教授）

お問い合わせ  
078-918-5248

7月27日に開催されたまちづくり勉強会“「地域における学び」を考える”に参加させていただきました。講師の中川幾郎先生から生涯学習のこれまでの歩みや生涯学習の価値等わかりやすく説明いただく中で、正直「参加してよかったな、生涯学習のとらえ直しができたな」と思えた勉強会でした。

コミュニティ・スクールに取組むまでは「地域とのつながりは大切だ、子どもたちは、地域の中で学ぶことは必要だ」と言いながら、「社会教育＝生涯学習、学校教育とはちがう」といった考えが私の中にはあったと思います。コミュニティ・スクールに取組む中で、

「コミュニティ・スクールは生涯学習につながっていく、コミュニティ・スクールは市民を育てる仕組である」と考えるようになってきましたが、今日改めて生涯学習は住民自治の活性化をめざすものであり、市民を育てていく上で必要な仕組として再認識することができました。コミュニティ・スクールはある意味、学校教育と社会教育との垣根をとっていく仕組でもあると感じました。

先生の話の中で紹介していただいた、J, Dewey の

“「民主主義の本拠地 (home) ではじめられなければならないのであり、その本拠地は隣人たちからなる共同社会にほかならない。」「地域的共同生活が回復されない限り、公衆はその最も緊急なる課題、すなわち自分自身を発見し確認するという課題を適切に解決することができないのである」”

の言葉は、コミュニティの必要性と、人が育つにはコミュニティが必要だと今の世の中を言い当てているように感じました。

また、P. ラングランの

「成人教育の入念な組立がうまく行われなければ、詰め込み主義教育から脱するための初等教育の抜本的な改革はありえない」の言葉を聞き、生涯学習のシステムを考えることが学びのイノベーションを起こすことにつながっていくと認識させていただきました。

新学習指導要領の「社会に開かれた教育課程」を打ち出す背景にはこうした考えがあるからなんだろうなと思いました。

生涯学習のイメージとして個人的趣味とか余暇の充実というとらえから、住民自治の活性化のための生涯学習へと変えていくことが必要であり、そうした生涯学習の中で学校教育を考えていくことが今求められているんだと、今回の勉強会に参加させていただいて強く感じました。本会場だけでなく、サテライト会場からの参加もあり、地域の皆さんも関心が高いと感じました。学校でも、研修としてこうしたことをテーマに対話を積み重ねていくことが意識を変えることになるんだと思いました。

## “まつ小マルシェ” 体験にストーリーを

第2学年 カリキュラム・マネジメント マップ		各教科・総合の計画とリンク		園工・音楽・体育・他
領域	算数	国語	総合	
5	「まつ小マルシェ」からはじまる「はたる銀行」	「はたる銀行」	「はたる銀行」	
6	「まつ小マルシェ」からはじまる「はたる銀行」	「はたる銀行」	「はたる銀行」	
7	「まつ小マルシェ」からはじまる「はたる銀行」	「はたる銀行」	「はたる銀行」	
8	「まつ小マルシェ」からはじまる「はたる銀行」	「はたる銀行」	「はたる銀行」	
9	「まつ小マルシェ」からはじまる「はたる銀行」	「はたる銀行」	「はたる銀行」	
10	「まつ小マルシェ」からはじまる「はたる銀行」	「はたる銀行」	「はたる銀行」	
11	「まつ小マルシェ」からはじまる「はたる銀行」	「はたる銀行」	「はたる銀行」	
12	「まつ小マルシェ」からはじまる「はたる銀行」	「はたる銀行」	「はたる銀行」	
1	「まつ小マルシェ」からはじまる「はたる銀行」	「はたる銀行」	「はたる銀行」	
2	「まつ小マルシェ」からはじまる「はたる銀行」	「はたる銀行」	「はたる銀行」	
3	「まつ小マルシェ」からはじまる「はたる銀行」	「はたる銀行」	「はたる銀行」	

先日、松が丘小の訪問から帰ってきた指導主事が、キュウリを手にしながらか「広がりがある学習だなとビックリしました」と夏の懇談期間中に開かれている「まつ小マルシェ」の様子を話してくれました。「まつ小マルシェ」は今年うまれた活動です。これまでもサツマイモを植えたり、夏野菜を育てることは生活科の学習で行ってきていましたが、今年は栽培活動にストーリーを描かれたようです。松が丘小の3年生は環境体験学習で中庭の池をテーマに取組、そのまとめとして2月にホタルの幼虫を放流することがこの数年続いています。コロナ禍でホタルの観賞会をこの2年開くことができませんでしたが、子どもたちだけでなく、保護者や地域の方もホタルが飛ぶのを楽しみにしてくれています。そのホタルの幼虫を購入する資金として、ホタル募金を行ってきましたが、2年生が3年生になった時の放流するホタルの準備として何かできないかと考え、自分

たちが育てた野菜を販売して売り上げをホタル募金にしていこうと始まった活動です。栽培だけで終わっていた活動が3年生までつながる一つのストーリーとして活動が進行しています。売れる野菜を育てるために、ふれあいガーデンの地域の方に教えてもらったりしながら夏野菜を育て、秋野菜の栽培へとつながっていきます。活動の中で「生活科の栽培活動」でのねらいだけでなく、この活動にどっぷり浸る中で認知的能力だけでなく、個々それぞれに非認知的能力がジワーとしみ込んでいくのではと考えています。今後いろいろと改善されながら、地域のカリキュラムとして根付いていったらいいなと思っています。従来の活動をつなぎ、価値づけをおこない、ストーリー性を持たせることで教科横断的な活動に生まれ変わり、保護者の方や地域の方への活動の見える化につながるんだと学ばせていただきました。



水やりも当番で協力して行い、収穫したした野菜を「松小マルシェ職員室前店」で販売を始めました。「松小マルシェ職員室前店」終業式前に閉店しましたが、個人懇談期間中「松小マルシェ中庭店」がオープン。野菜には子どもたちのメッセージと手作りレシピカードが入っています。懇談にやってきた保護者の方や地域の方が覗いてくれ、好評だったようです。(文責：北本)

水やりも当番で協力して行い、収穫したした野菜を「松小マルシェ職員室前店」で販売を始めました。「松小マルシェ職員室前店」終業式前に閉店しましたが、個人懇談期間中「松小マルシェ中庭店」がオープン。野菜には子どもたちのメッセージと手作りレシピカードが入っています。懇談にやってきた保護者の方や地域の方が覗いてくれ、好評だったようです。(文責：北本)